

平成24年4月16日

第97号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



桜と春の富士（静岡県伊豆市土肥から）

（撮影者：伊豆森林管理署 木皿 仁志）

平成24年度関東森林管理局の業務運営について

企画調整室

私と国有林「森林教室に参加して」

埼玉県ときがわ町立玉川小学校 教頭 奥村 一博 氏

『平成24年度関東森林管理局の業務運営について』

〈民有林・国有林が連携した森林・林業の再生〉

企画調整室

関東森林管理局では、森林・林業再生プランの実現と平成25年4月からの一般会計化に向け、公益重視の管理経営を一層推進するとともに、我が国の森林・林業の再生に貢献することとしています。

このため、平成24年度においては、森林・林業の再生に向け具体的な取組が進められることを踏まえ、民有林・国有林の連携を重視しつつ、搬出間伐・路網整備の加速化、森林共同施業団地における取組の促進、「准フォレスト」等人材育成の支援、国産材の安定供給体制などに率先して取り組みます。

また、東日本大震災への対応については、被災林地等の早期復旧や福島第一原子力発電所の事故により放射性物質に汚染された国有林の除染に取り組みとともに、除去土壌等の仮置場の設置等にも積極的に協力していきます。

民有林・国有林が連携した取組の推進

森林・林業の再生に向けて、森林共同施業団地の取組を推進し、民有林・国有林一体となった路網整備や

間伐の推進等に積極的に取り組むとともに、森林・林業再生のため、流域森林・林業活性化協議会等に対して国の施策の紹介、民有林・国有林連携による取組の提案や、更には、局幹部と都県森林・林業関係者との意見交換を行う「民国連携意見交換会」を開催するなど国有林野事業に対する地域ニーズの把握に努めます。

また、流域管理システムの下で、安定的・計画的な木材供給、民有林・国有林一体となった森林施業、林業事業体の育成等の取組を着実に推進します。



民国連携意見交換会の様子(茨城県)

森林施業の低コスト化と木材の安定供給

民有林と連携し、路網の作設技術の普及・定着を図りつつ、その整備に積極的に取り組むとともに、路網と列状間伐及び高性能林業機械を組み合わせ、低コストで高効率な作業システムの普及・定着を更に促進します。植え付け作業効率が高いコンテナ苗を用いた低コスト造林の実践・実証に取り組みます。

また、間伐材等の安定供給と利用拡大を図るため、民有林との連携を図りつつ、システム販売による大口需要者への安定的な供給や、低質材や林地残材のバイオマス原料、石炭火力発電所での混焼利用など、販売の多様化に取り組みます。



専用運搬車による林地残材搬出

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
低質材販売実績 (千m3)	14.5	17.3	17.5

森林・林業再生に向けた人材育成

准フォレストや林業専用道技術者等の育成にあたって、国有林のフィールド・技術力の提供を行うとともに、国有林職員から准フォレストを選定し、都県との連携を図りつつ、民有林行政を支援します。

また、大規模な山地災害時に適切に対応できる能力や、林業専用道作設など民有林への施業の低コスト高効率作業システムの普及等において指導的役割を果たす能力を有する専門技術者の育成に努めるなど、森林に関する技術者としての必要な知識や能力を養うとともに、民有林行政を支援することを念頭に、民有林の制度等に関する知識の習得が図られるよう研修内容の充実に努めます。



低コスト路網の作設の様子

生物多様性の保全

原生的な森林生態系や貴重な野生動物植物が生息・生育する森林については、モニタリング調査を通じて、厳格な保全・管理を行う保護林や野生生物の移動経路となる緑の回廊の適切な保全・管理等を推進します。

また、野生鳥獣との共生を可能とする地域づくりに取り組むため、地方公共団体、NPO等と連携し、シカの食害による植生荒廃が発生している富士山、伊豆地域等において個体数管理に取り組むとともに、林業と生物多様性保全の両立を図るオオタカモデル森林でのモニタリング等の取組を積極的に進めます。



世界自然遺産に登録された小笠原諸島

平成23年6月に世界自然遺産に登録されて以降、観光客が増加している小笠原諸島森林生態系保全センターを核として、巡視活動や外来種対策の強化等に取り組みます。

国民の森林としての管理経営

国有林の管理経営状況等について国民に分かりやすく伝えるため、国民が「丸」となって森林を支えていく機運を醸成しようとの2011国際森林年メッセージも踏まえ、イベントや各種の媒体を通じたPR活動等を推進するとともに、積極的な情報発信に努めます。

また、本年は「世界遺産条約採択40周年」であることも踏まえ、国有林における取組の積極的なPRに努めることとしており、赤谷森林環境保全ふれあいセンターや高尾森林センターの活動を通じた国民への情報・サービス提供に努めるほか、国有林モニター制度を活用した国民の要請の把握に努め、これを反映した管理経営を行う対話型の取組を推進します。

国民の保健・文化・教育的利用に積極的に供している「レクリエーションの森」については、企業やNPO等多様な主体の参加を得て「レクリエーションの森」の整備・管理を進めるためのサポーターの募集、新たな管理運営協議会の設立等のリフレッシュ

対策に取り組みます。

国有林野の維持及び保存

本年1月に世界遺産一覧表への記載に向け推薦書を提出した「富士山」における景観の保全にも配慮した取組を推進します。更に、推薦書に記載されている構成資産周辺等の景観保全対策を促進します。



世界遺産への登録を目指す富士山

東日本大震災への対応

津波により被災した海岸防災林や林地・林道被害等の早期復旧に取り組むとともに、復興に必要な木材の安定供給に努めます。また、復興に必要な用地に係る地

方公共団体等からの要請に対して、国有林野の貸付けや売払を行うなど積極的な対応に努めます。

放射性物質に汚染された森林の除染については、新たに設置した森林放射性物質汚染対策センターを核として、関係市町村等と連携を図りながら国有林の森林除染を実施するとともに、除去土壌等の仮置場や除染技術の実証・研究開発等に係る国有林のフィールド提供等に積極的に対応します。



森林の除染(落葉等の堆積有機物の除去)



赤谷の森から

赤谷の森のモニタリング活動 第1回(自然林復元試験地)

赤谷プロジェクトでは生物多様性の復元を目的に、スギなどの人工林の一部を積極的に自然林に戻す試験を行っています。植栽などの方法に頼らず、自然の活力を活かし自然林へと誘導するには、人工林をどのように伐採するのが効率的なのか、いくつか試験地を設けて検証しています。

1 これまでの試験でわかってきたこと

- (1) これまでの試験の結果からは、1回の間伐では自然木の進入は難しいこと。
 - (2) 20%程度の皆伐では、多くの若木が発生するが、成長が思わしくないこと。
 - (3) 40%程度の皆伐では、若木の数は少ないが、成長が良いことなどがわかってきました。
- また、既存の人工林200箇所以上の植生等を詳細に調査したところ、自然林への誘導のしやすさは、種子を供給できる自然林からの距離と、人工林になる前の土地の利用状況(自然林、人工林又は

2 新しい伐採試験地

採草地)が強く作用することもわかってきています。

これまでの試験でわかったことを元に、平成23年に大規模な新しい伐採試験地を設定しました。(イメージ図参照)



新しい伐採試験地イメージ図

対象としたのは林内にほとんど自然木の進入がないスギ人工林、さらにこの人工林の一部は元々草地であったところに植栽したことがわかっており、本来そこに生育すべき種類の植物が少なく、自然林への誘導が最も難しいと予想されました。

ここでは、3種類の試験地を設定しました。

- (1) 自然林からの距離と種子供給との関係を明らかにするため、成熟した自然林に隣接した皆伐試験地①延長約200%幅約20



伐採試験地40m×200m

②同延長で幅約40%をそれぞれ設定

(2) 人工林造成以前は草地であった(1)の試験地と比較するため、人工林造成以前に自然林だった隣接箇所に皆伐試験地、③延長約100%幅約20%を2箇所設定

(3) その他に自然林から遠い場所に、僅かに進入していた自然木を伐採せず残した場合と全て伐採した場合の自然木の発生を比較するための試験地④を設定

今後は自然木の発生の様子は勿論、鳥や動物、昆虫の利用状況の変化等様々な角度から継続的にモニタリングを行っていくこととしています。

これらの調査結果を評価することにより、自然林への誘導が難しいと予想される場所における課題を洗い出し、他の場所でも活用できるように伐採の方法を探っていきたいと考えています。

赤谷の森自然散策の実施
<http://www.rnpanaff.go.jp/kanto/akaya/bog201202.html>

2月19日(日)群馬県みなかみ町(赤谷の森)で冬の森林・冬芽と動物のフィールドサインの観察会を行いました。

午前は、冬芽の観察で、森林土壌や植物の専門家である長島成和さんを講師に招き、図鑑やルーペなどを使い、冬芽の特徴から樹種を見分ける方法を学びました。

午後は、赤谷センターの職員がプロジェクトを使用して動物の足跡の特徴を説明した後、スノーシューを履いて雪上にある動物の足跡の観察を行いました。

当日は天候にも恵まれ、ウサギやイノシシなどの足跡が点々と続いており、参加者の皆さんは興味深く観察しながらその足跡から動物の生活に想像をふくらませていました。



これは何の足跡かな？
キツネ？それともタヌキ？

幹部の紹介

4月1日付け()は前職

計画部長

池田 直弥



(略歴)

- 出身 東京都
- 昭和60・4 林野庁入庁
- 平成7・4 大分西部営林署長
- 平成9・4 石川県農林水産部森林管理課参事
- 平成10・4 石川県農林水産部森林管理課担当課長
- 平成12・4 林野庁指導部計画課課長補佐
- 平成16・4 熊本県林務水産部森林整備課長
- 平成19・4 林野庁森林整備部計画課首席森林計画官
- 平成21・9 林野庁森林整備部整備課造林間伐対策室長
- 平成22・7 林野庁森林整備部研究・保全課技術開発推進室長
- 平成24・4 関東森林管理局計画部長

関東森林管理局課長等

- ▽企画調整室長 榎 裕之 (林野庁国有林野部経営企画課地域森林計画調整官)
- ▽総務部職員厚生課長 小野 功吉 (企画調整室監査官)
- ▽計画部指導普及課長 川添 峰夫 (中部森林管理局計画部森林技術センター所長)
- ▽森林整備部森林放射性物質汚染対策センター所長 相澤 肇 (林政部木材産業課課長補佐(調整班担当))
- 森林管理署長等**
- ▽会津森林管理署長 飯塚 充由 (東北森林管理局宮城北部森林管理署長)
- ▽棚倉森林管理署長 池田 敏 (北海道森林管理局樺山森林管理署長)
- ▽中越森林管理署長 北村 昌三 (独)森林総合研究所森林農地整備センター 関東整備局静岡水源林整備事務所長)
- ▽上越森林管理署長 山崎 政美 (四国森林管理局愛媛森林管理署長)
- ▽天竜森林管理署長 佐山 光則 (北海道森林管理局十勝西部森林管理署長)
- ▽千葉森林管理事務所長 見上 敏一 (森林技術総合研修所教務指導官)

新規採用者の紹介

4月9日(月)各森林管理署等へ配属された新規採用者等21名が一堂に会し、新規採用研修の開講式が行われました。

研修を終えて、それぞれ所属先で職業人としてスタートします。

先輩の皆さんよろしくお願ひします。

新規採用Ⅱ種(写真前列右から)

- 伊豆森林管理署 福田 國之 (平成23年10月採用)
- 福島森林管理署白河支署 中西 智也
- 会津森林管理署南会津支署 筒井 建伍
- 茨城森林管理署 彦田 祥子
- 日光森林管理署 江口 和成
- 中越森林管理署 井上 祥吾
- 静岡森林管理署 瀬川 元気
- 任期付職員**
- 森林放射性物質汚染対策センター
- 福島森林管理署 谷 秀司
- 福島森林管理署 志鎌 純一
- 福島森林管理署 長尾 美穂
- 磐城森林管理署 矢口 慎
- 関東森林管理局 神崎 隆洋

新規採用Ⅲ種(写真後列右から)

- 福島森林管理署 小澤 一貴
- 会津森林管理署 江頭 混一
- 棚倉森林管理署 平生 貴成
- 茨城森林管理署 入江 航也
- 群馬森林管理署 高倉 大斗
- 吾妻森林管理署 山口 悟
- 下越森林管理署村上支署 増永 隼也
- 天竜森林管理署 杉山 寛直
- 伊豆森林管理署 久保田 燎



私と国有林

森林教室に参加して

埼玉県ときがわ町立玉川小学校 教頭 奥村一博

人と自然の優しさに溢れるときがわ町は、埼玉県の西部丘陵地域に位置し、町名にもなっている清流「都幾川」は、町を西から東に貫き青い石の奇岩「三波溪谷」を洗いながら流れています。また、1,300年の歴史を誇る名刹「慈光寺」は、鎌倉時代に源頼朝の寄進を受けて栄えた寺です。



森林のはなし

授業では、「植物の光合成と二酸化炭素・酸素の関係」や「地球上の多くの生き物と水や空気の関係」などを理科で学びます。今回、慈光寺の奥に広がる国有林で開催された埼玉森林管理事務所による森林教室に

6年生55名が参加し、森林という現地で生きた学習することができ、子どもたちも多くのことを学び、成果がありました。



貯金箱作り

森林教室に参加した児童の感想文を「国際森林年記念 第15回森林は友達！作文コンクール」に応募し、努力賞を受賞した作品を紹介します。

『森林教室に参加して』

玉川小・6年 栗本 沙羅

私は今回、森林教室に参加して学び、心に残った思い出を二つ紹介します。

一つめは、竹の貯金箱を作ったことです。まずすぐく分厚い竹を切りしました。切るのに3分ほどかかり、すぐ手が痛かったです。次にお金を入れる口を作り、それなりにかわいくてよかったです。

二つめは、農林水産省の方などから教えてもらったお話です。木は人工林と自然にできた林の二つに分かれています。人工林を作る理由は、私たち人間が木を使い様々なものを作ることで林が狭くなった、木が減って、この地球の自然が減ってきています。それで人工林を作っているのです。

慈光寺の人工林は、木を増やすことだけではなくもう一つ役割があります。それは、土砂災害を防ぐことです。わざと急な崖に木を植えることで、土砂から人を守ることができ

(中略)

私は、この森林教室に参加し、普段体験できないような体験ができてすぐよかったです。改めて自然の大切さを知ることができました。この体験を活かして何かに役立てることができればいいと思いました。』

また、他の児童の一部を紹介します。

『森林は、水をきれいにしてくれたり、養分をいっばい含んでいたたり、新しい酸素を出してくれたり等、い



丸太切り体験

ろいろなところで私たちの生活に関係しているんだと言うことがわかりました。 6年 福田 深涼』

『丸太切りです。慣れないのこぎりで切るのはとても難しかったです。切った丸太は、ひもを通してストラップにしました。すぐく楽しかったです。 6年 中島 紗英』

教室から出て豊かな森へ出向き、森林の役割や木の利用等について体験を通して学習してきました。ときがわ町の小中学校の校舎や体育館の内部は、全て木質化され快適な学習環境が整っています。また、町の産業としても木材を使った「建具作り」が盛んです。町の将来を考えたとき、森林の大切さを改めて実感する素晴らしい体験学習でした。

森づくりの最前線

塩那森林管理署 那須森林事務所 森林官 佐藤 健治



春の訪れを待つ茶臼岳

私が勤務している那須森林事務所は、栃木県の北東部に位置し、那須塩原市と那須町に所在する国有林約16,800㍍を管理しています。

管内には、日本百名山に数えられる茶臼岳（標高1,915m㍍）を中心とする那須連山があります。中でも茶臼岳は今でも噴煙をあげる荒々しい景観や山頂からの展望が人気で、山頂付近までロープウェイが整備されていることなどから手軽に登山を楽しめることが特徴です。

那須街道のアカマツ林

旧国道4号線から那須高原へつながる那須街道の入口には、約2㍍にわたり1万2千本ほどの天然のアカマツ林がすばらしい景観をつくり出しています。

このアカマツ林は、昭和22年までは旧宮内省帝室林野局所管の御料林でした。戦後の食糧増産が必要な時代には那須地域にあった旧御料林の多くが開墾されましたが、本林は那須街道アカマツ林の美しい風景を守るために開墾されず、その後、国有林として管理されてきました。

林内には、ウッドチップ敷きの遊歩道が整備されており、アカマツはもちろん、ユリ類、ラン類、リンドウ類などの花を楽しみながら歩くことができ、多くの方に森林散策の場としても親しまれています。



那須街道アカマツ林

松くい虫によるアカマツ林の被害対策

この那須街道のアカマツ林は、松くい虫による被害により、近年は毎年300本程度が枯れています。

この場所は準絶滅危惧種に指定されているオオタカをはじめとする猛禽類の姿が見られ、これらの生息の場として重要となっていますが、松くい虫の被害等により、巣を作るのに適したアカマツが減少してきています。

このため、春には地上からの薬剤散布や、冬には被害を受けたアカマツの伐採処理によりマツクイ虫の駆除を行うとともに、特に、営巣木周辺のアカマツには発病を防ぐ薬剤を樹幹に注入するなど、被害対策に取り組んでいます。

この様に、アカマツ林の保護に取り組んでいますが、被害を完全に食い止めることは非常に難しいと感じています。

この様な中、アカマツの植栽や保育作業などの、次代を担うアカマツの保護活動を地元ボランティア等多くの方々の協力を得て行っています。

今後とも、パトロールを強化し、被害の把握や調査等に力を注ぐとともに、多くの方の協力を得ながら、このすばらしいアカマツ林を後世に残せるよう、取り組んでいきたいと思ひます。



アカマツの樹幹に薬剤を注入



アカマツの植栽に参加した子どもたち

管内のいちおしスポット

浄蓮の滝

■ 伊豆森林管理署 <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/izu/index.html>
 〒410-2401 静岡県伊豆市牧之郷546-51
 TEL:0558(74)2522(代表) FAX:0558(72)5553



浄蓮の滝

伊豆半島のほぼ中央、伊豆市湯ヶ島温泉の2*0.5km南に、美しい女郎蜘蛛（妖怪）が棲むという「浄蓮の滝」があります。水は轟音とともに高低差25m幅7mの滝を落ち、深さ15mの滝壺を藍色に満たしながら、ワサビ田に沿うように本谷川を下ります。

滝の傍らには、この地域と九州地方でのみ自生するハイコモチシダが群生し（浄蓮ハイコモチシダ植物群落保護林、静岡県指定の天然記念物）、大きな緑葉が滝を一層幽玄的に魅せています。



ハイコモチシダ

この秘境めいた滝も、明治末に歩道が整備されてから多くの人々が訪れ、1990年には「日本の滝100選」の一つに選ばれるなど今日では伊豆の景勝の一つとなりました。川端康成の小説「伊豆の踊子」の道程を再現できる踊子歩道はこの滝を起点にしており、旧天城トンネルを経て河津七滝に至る約16*0.5kmの道のりは、四季を問わず多くの観光客を楽しませてくれます。



また最近では、その景観に加えジオサイトとしても注目が集まっています。伊豆半島は60万年前に日本列島に衝突、合体して以来、多くの火山活動を繰り返してきました。その痕跡を浄蓮の滝両脇にある岩盤から見る事ができるのです。玄武岩一面に並ぶ縦長の箱状の突起は「柱状節理」と呼ばれ、鉢窪山噴火の際に流出した溶岩流が急速に冷やされてできたものです。つまり私たちは浄蓮の滝から1万7千年前の伊豆の火山活動を思い浮かべることができるのです。

伊豆の名瀑に悠久の大自然を感じてみませんか。

- ・ 浄蓮の滝へは、修善寺駅から東海バス河津行きで35分
- ・ 駐車場奥の階段を200段下ったところにあります。
 (伊豆森林管理署 広報広聴連絡官 福嶋 貢史)

発行所 関東森林管理局
 編集総務課
 TEL(027) 210-1158
 FAX(027) 210-1159

所在地：福島県福島市野田町7-10-4
 福島森林管理署庁舎1階
 電話番号：024(536) 6556
 FAX：024(536) 6557

関東森林管理局は、生活圏に接する国有林の除染事業を実施するため、平成24年度から新たに「森林放射性物質汚染対策センター」を設置しました。

森林放射性物質汚染対策センターを設置

お知らせ

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/koho/event/index.html

実施日 平成24年4月29日(日)
 開催場所 群馬県前橋市敷島町66番地
 群馬県立敷島公園

毎年4月に関東森林管理局で開催していますグリーンフェアにつきましては、庁舎の耐震工事のため、隣の敷島公園まつりと共催で実施いたします。
 皆様のご来場をお待ちしております。

グリーンフェア2012
 敷島公園まつり共催

参加者募集